



笑顔いっぱい 青垣小学校開校

4月1日、青垣地域の4小学校が統合し、児童数279人の市内で3番目に大きい、青垣小学校が誕生しました。新しい学校でたくさんの友だちと過ごすドキドキの毎日。子どもたちは、大きな一歩を踏み出しました。

周囲には教育機関が集まっており、認定こども園あおがき、青垣中学校、氷上西高等学校が徒歩圏内です。0歳から18歳までの教育を連携して行うことができる市内屈指の教育環境をもつ小学校が誕生しました。

新たな歴史のはじまり

青垣小学校は、芦田小学校、佐治小学校、神楽小学校、遠阪小学校が統合し、市内22小学校の中で3番目に児童数の多い小学校です。児童数は1年生52人、2年生44人、3年生46人、4年生53人、5年生40人、6年生44人の合計279人。全学年2クラスで、児童たちは初めてのクラス替えを経験しました。友だちや先生との新たな出会いとともに、青垣小学校の歴史がスタートしました。

小学校の誕生に合わせ、新たな校章を定めました。

また、児童数増加により校舎を新設、校区拡大によりバス通学も導入しました。

校章は、AOGAKIの頭文字「A」をモチーフにデザインされています。山と自然に囲まれた青垣小学校で、たくましく成長する子どもを表現。尖りは山をイメージし、緑色の配色や中央部分の葉が豊かな自然をイメージしています。

校舎は、佐治小学校敷地内に新設しました。市内産の木材をふんだんに使用した、木のぬくもりを感じる建物です。夜間の涼しい風を利用し、室内を冷やす換気システムや太陽光発電を取り入れるなど環境に配慮した設計です。自然エネルギーを活用した、省エネルギーで災害に強い校舎が完成しました。

バス通学は、通学距離が遠い児童のために導入しました。ちーたんの描かれた専用のスクールバス4台で校区内を運行し、児童を安全に送迎します。

伝統をつなぐ

長く地域の中心であった、4小学校の閉校にあたり、3月25・26日の両日、主催の閉校式典と地元自治協議会・自治振興会主催の閉校行事が行われました。4小学校の閉校関連行事には1300人以上が参加し、慣れ親しんだ学校との別れを惜しみました。地元自治協議会・自治振興会などを中心に、記念碑や記念誌の作成なども行われ、歩みを振り返りました。

近年、少子化で児童数が減少し、芦田小学校78人、佐治小学校102

人、神楽小学校55人、遠阪小学校37人になっていました。子どもたちの健やかな成長と教育の充実のため、統合が決定されました。

140年を超える長い歴史の中で、各学校では地域に根ざした教育や伝統を育んできました。芦田小学校のふるさと教育、佐治小学校の異年齢活動などの生き方教育、神楽小学校の地域の方に文化・伝統を学ぶ「地域住民ゲストティーチャー事業」、遠阪小学校の伝統的教育活動「鉛筆削り大会」。こうした伝統を青垣小学校に引継ぎ、未来へ繋いでいきます。



青垣小学校の新しい校章



